

2007年12月21日

NHK経営委員会 御中

次期NHK会長の選出をめぐる貴委員会の審議のあり方 に関する質問と要望

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ

共同代表：湯山哲守・醍醐 聰

HP：<http://space.geocities.jp/shichoshacommunity/>

報道によれば、貴委員会の古森委員長は、去る12月13日に開催された定例会の会合後に、次期NHK会長は現執行部からは選出せず、主に経済界から人選することを全会一致で決定したと発表されました。ところが12月19日に菅原明子、保ゆかりの両経営委員が古森経営委員長に対して、次期会長選出をめぐる委員長の議事運営の姿勢をいまだちに改めるよう求める3項目の要望を提出されました。また、両委員はその後、「私たちの以上の思いを直接、視聴者の皆さまにも訴え、その是非をご判断いただくため」と断って記者会見を開き、これまで非公開とされてきた経営委員会内での会長選出をめぐる議論の様態を記した議事メモを公表されました。

こうしたNHK会長の選出をめぐる異例の事態に当会は強い関心を寄せ、会長人事をめぐる貴委員会の審議のあり方について、下記のとおり質問と要望を提出致します。これについて、次回経営委員会（12月25日開催）で検討いただき、検討結果を議事録で公開いただくとともに、当会宛てに書面でのご回答をお願い致します。なお、ご回答は下記に記載した宛先へ12月28日までにお送りくださるよう、お願い致します。

質 問

〔質問1〕 11月26日に当会を含む5つの市民団体と6名のメディア研究者・ジャーナリストは連名で「NHK次期会長選出に際しての申し入れ」を行いました。その中で、会長の選出基準として、「ジャーナリズムと放送の文化的役割についての高い見識を持ち、言論・報道機関の責任者として、放送の自主・自立の姿勢を貫ける人物」であることを挙げました。

貴委員会は11月27日、12月13日の会合で、次期NHK会長は現執行部からは選出せず、主に経済界から人選することを決定されるにあたって、この申し入れをどのように検討されたのか、お答えください。

〔質問2〕 12月10日付で「原さん、永井さんをNHK会長候補に推薦する会」が67名の文化人、メディア研究者、ジャーナリストの賛同を添えて、「NHK会長候補者の推薦に関する申し入れ」を貴委員会宛てに提出しています（推薦賛同者名簿は12月13日に追加分を含めて差

し替えられています)。

2-1 貴委員会は12月13日の会合で、次期NHK会長は現執行部からは選出せず、主に経済界から人選することを決定されるにあたって、この申し入れをどのように検討されたのか、お答えください。

2-2 古森委員長は会合後の記者ブリーフィングで、現執行部は会長候補から除き、外部から選ぶことを全会一致で決定した、と発言されました。しかし、菅原、保両経営委員の記者会見の場での説明によると、今月委員に着任されたばかりの2名の委員は保留、菅原、保両委員は内部の人を候補から外すことに反対したと報道されています。

両委員の説明が事実とすれば、古森委員長は審議の模様を歪めて対外的に発表されたこととなります。真相をご説明ください。

〔質問3〕 古森委員長は12月13日の会合後の記者ブリーフィングで、次期会長候補から現執行部を除くことにした理由として、「次期5カ年経営計画案に触れ、『NHKの将来像を骨太に示す抜本的な改革策ができなかった。橋本氏や現執行部の理事らに（次期会長を）託すことは難しく、変化に対応できる新たな人材を選ぶことにした』と述べた」（『朝日新聞』2007年12月14日）と報道されています。

ここで古森委員長が言われた「NHKの将来像を骨太に示す抜本的な改革策」とはどのような改革策を意味するのか、また、「変化に対応する」とは何をどのようにすることなのか、具体的にご説明ください。

現執行部に不信任を突きつけるのであれば、その理由を具体的に示さなければ、経営委員会とNHK執行部の緊張関係の中での信頼・連携は望めません。当会は古森委員長が発言された上記のような抽象的なフレーズの意味を全く理解できませんのでわかりやすくご説明ください。

〔質問4〕 報道によれば、貴委員会は今後は財界人を中心に人選を進めることにしたと伝えられています。これについて、古森委員長は「公共放送の質を高めるのが一番だが、もっと経営らしい経営で筋肉質にする必要がある。マスコミのエキスパートでなくても、経営者としての実績があり、しがらみがない人がいい」（『朝日新聞』同上記事）と語っておられます。そこで伺います。

4-1 NHKを「もっと経営らしい経営で筋肉質にする」とはNHKのどこをどのように変えようというのでしょうか？ わかりやすくご説明ください。

4-2 古森委員長も一番の課題とされた公共放送の質を高めるのになぜ財界人がふさわしいのか、わかりやすくご説明ください。

〔質問5〕 菅原委員が公表された議事メモによれば、12月13日の会合の最後で古森委員長は「その方の名前を教えてほしい」という菅原委員の求めに応じないまま、「次回、自分がノミネートした人物を連れてきて紹介する、しかし、そこで否決されると本人の面子がつぶれるから困る」と発言されています。

5-1 この発言が事実とすれば、古森委員長はNHK会長を選考する会合に「意中の候補者」を連れてきて他の経営委員に紹介する腹づもりと考えられます。しかし、人事を審議する場に候補を連れてきて紹介するというやり方を私たちは寡聞にして知りません。なおかつ、古森委員長が事前にその人物の名前を他の委員に知らせることなく、面子をつぶされては困るから否決しないでほしいという趣旨の発言されるに至っては、自分に白紙一任を迫ったのも同然です。

このような古森委員長の不透明で独善的な議事運営を経営委員会は総意として了承されたのでしょうか？

5-2 自分が連れてくる人物の面子をつぶさないようにという古森委員長の発言は公共放送の長にふさわしい人物を選ぶという経営委員会の使命よりも、自分の「意中の人物」の体面を優先する会長人事の私物化と批判されても致し方ありません。

このような委員長の横暴な議事運営を許したのでは経営委員会に対する視聴者の信頼は失墜すると私たちは考えます。他の経営委員の皆様は上記のような古森委員長の発言をどのように受けとめておられるのか、説明をお願いします。

要 望

〔要望1〕 上記の〔質問5〕で指摘した理由から、12月25日に開催される経営委員会の場で古森委員長が連れてこられるという人物を会長に選出されることは、あまりに乱暴で非民主的な審議の進め方と言わざるを得ません。当会は経営委員の皆様の良い識において、そのような乱暴で非民主的な議事の進行を思いとどまっていただくよう、強く要望します。

〔要望2〕 会長選出にあたって、経営委員会が合議機関としての機能を適正に果たすには、委員間で審議をめぐる情報を共有することが不可欠です。その意味では指名委員会での審議の様態を議事録として残し、それを指名委員会に所属しない委員にも迅速に公開する必要があると考えます。そこで、当会は次の2つの情報公開をただちに実施されるよう、要望します。

2-1 会長人事を協議した指名委員会の議事録を作成し、指名委員会に所属しない経営委員に速やかに公開すること。また、候補者の個人情報に配慮しながら、指名委員会議事録を視聴者向けにも公開すること。

2-2 最近、貴委員会はしばしば、NHK執行部が加わる経営委員会の会合に先立って、委員のみの会合を開催しておられます。また、平成19年9月25日に開催された経営委員会の議事録によると、「経営委員会は、本年7月24日以降、通常の会議の他に臨時経営委員会を開催すると共に集中討議をするなどして・・・」と記載されています。とすれば、これらの会合でも経営委員会としての正規の協議事項が審議されているのは間違いないわけですから、個人情報に配慮しながら、現在、公開されている議事録と同様の議事録を公開されるよう要望します。

〔要望3〕 最後に、昨年6月19日、有識者17名からなる「デジタル時代のNHK懇談会」は1年間にわたる議論の上で「公共放送NHKに何を望むか——再生と時代への展望」と題する報告書を提出しました。これはNHK理事会に対してだけでなく、経営委員会に対しても重要な提言になっています。その基本的立場は、(1) 公共放送は民主主義の発展と成熟に不可欠である、(2) NHKと民放の歴史に根づいた二元体制を発展させるべきである、(3) デジタル時代の公共放送を産業振興策や政争の具に使ってはならない、(4) NHKの民営化や有料放送化はすべきではない、(5) 受信料には公共空間を活性化させる社会的コストの意味合いがある、というものです。経営委員会も次期NHKの会長を選出するにあたって、このような提言を積極的に受け止め、先頭に立って実践できる人物かどうかを十分に検討していただくよう要望します。

以 上

ご回答送付先

× ×